



会員寄稿

がんばれ受験生！何とかなる！

PTA監事 相原 正知

昨年7月の西日本豪雨によって大規模な水害や土砂崩れが生じ、尊い命が奪われるほどの大きな災害となった。

私もこの災害によって自宅が床上浸水し、その惨状を目の当たりにすると、文字通り「呆然」となった。まず、何をすべきか、何から手を付ければ良いのか、一瞬で被災者という立場になった自身を理解することに時間がかかった。

そうした状況を打破できたのは、家族や地域のみなさんの協力のおかげであった。特に感心したことが、高校生である娘たちの同級生が何日も支援物資を持って駆けつけてくれたことだ。夏真っ盛りの暑い中、たくさんの生徒が激励に来てくれたことは、私にとってすごく励みになり、娘たちも知らぬ間にこうした友人ができていいのかと嬉しく思ったことを覚えている。現在では何とか自宅も復旧し、以前と変わらない生活ができていることもこうした多くの方々の支えあつてのことだと感謝、感謝の気持ちである。

ただ、この水害で得たものもある。かっこよく言えば家族の絆である。水が出ない辛さ、避難先での生活、いつ自宅に帰れるかという不安の中で、家族みんな不満やイライラが募る日々であった。不平不満もぐっところえ、皆で堪え忍んだ経験は家族として一つの節目を迎えることができたかなと感じている。今後、「もうだめだ」と思っても、「何とかなりそうだ」と思えるようになったのも事実である。

本稿は大学入試センター試験実施直前に執筆している。本格的な受験シーズン到来となり、受験される生徒はもとより、受験生を支えている保護者の皆さんも、大きな壁に立ち向かおうとがんばっている時であると思う。私自身も経験した、あのピリピリしたなんともいいようのない感覚や緊張をほろ苦く思い出す、その時期を乗り越えたことは今でも私の礎となっている。受験生のみならず、ぜひ全力でぶつかりその壁を打破してほしい。

最後に、私から受験を控えた皆さんに、心からのエールを送りたい。

「がんばれ受験生！何とかなる！」